静岡県議会議員　ふじのくに県民クラブ

田内浩之事務所
〒431-0431 静岡県湖西市鷲津 5267
電　話　053-575-3105
ＦＡＸ　053-575-3107　メール　info@tanai.jp
携　帯　080-1553-9629　ホームページ　http://www.tanai.jp

田内浩之だより

気迫と情熱

ご挨拶

現在新型コロナウイルス感染状況は落ち着いておりますが、第６波が来る前提で県は動いています。これまでも、様々な対応で頭を悩ませる日々がこれまで続きましたが、５月に静岡県が出した湖西市の飲食店に対する時短要請は、副知事と市と協議を重ねながら判断に迷いました。結果として要請に至り、湖西市の感染者数も減少しましたが、改めて命に関わる判断の難しさを感じました。また、湖西市内は現在半導体不足の影響で自動車関連製造業が厳しく、燃料高や飼料高で農業漁業者も苦しく、依然として飲食業も苦しい状況ですが、民間事業者さんのチャレンジする姿勢や地元のために働く気持ちに日々勇気づけられています。私も、このようなときだからこそコロナ対応だけではなく、オリンピックパラリンピックのレガシーづくりや、浜名湖を環境先進地域にするためのレイクハマナ未来都市構想、県企業局による工業団地の可能性調査、浜名港でのにぎわいづくり、関所周辺や鷲津駅新所原駅周辺活性化など前を向く事業に積極的に取り組んでいます。初心を忘れず、引き続き地道に努力してまいりますのでご支援ご指導をよろしくお願いいたします。

▲本会議
一般質問の様子

◀パラスポーツ
大会に出場

目　次

ご報告Ⅰ　県全体の取り組み
1 コロナ対応
2 産業委員会委員長に就任

ご報告Ⅱ　湖西市関連の取り組み
1 ドクターヘリ格納庫
2 高師山地区津波避難タワー
3 新所原駅周辺活性化
4 大倉戸茶屋松線
5 浜名港活性化
6 西部保健所移転
7 (オリ・パラ)レガシーづくり

ご報告Ⅲ　一般質問
- レイクハマナ未来都市
  1 環境重視型の工業エリアの形成
  2 電力の再生可能エネルギー化
- 骨髄ドナー登録者への支援
- 浜名湖におけるアサリの資源回復
- 浜名港

報告Ⅰ　県全体の取り組み

1 コロナ対応

現在感染者数が急減しています。(令和３年12 月時点)
しかし、オミクロン株の出現による感染拡大やデルタ株が急増した第５波を踏まえ、県は３点を重点的に進めていきます。

1. **医療機関における抗体カクテル療法の提供体制強化**
2. **自宅療養者への迅速な診療体制整備**
3. **宿泊療養施設での酸素投与や抗体カクテル療法の提供体制整備**

一人ひとりの感染症対策が重要です。
引き続き感染予防行動をお願いします。

2 産業委員会委員長に就任

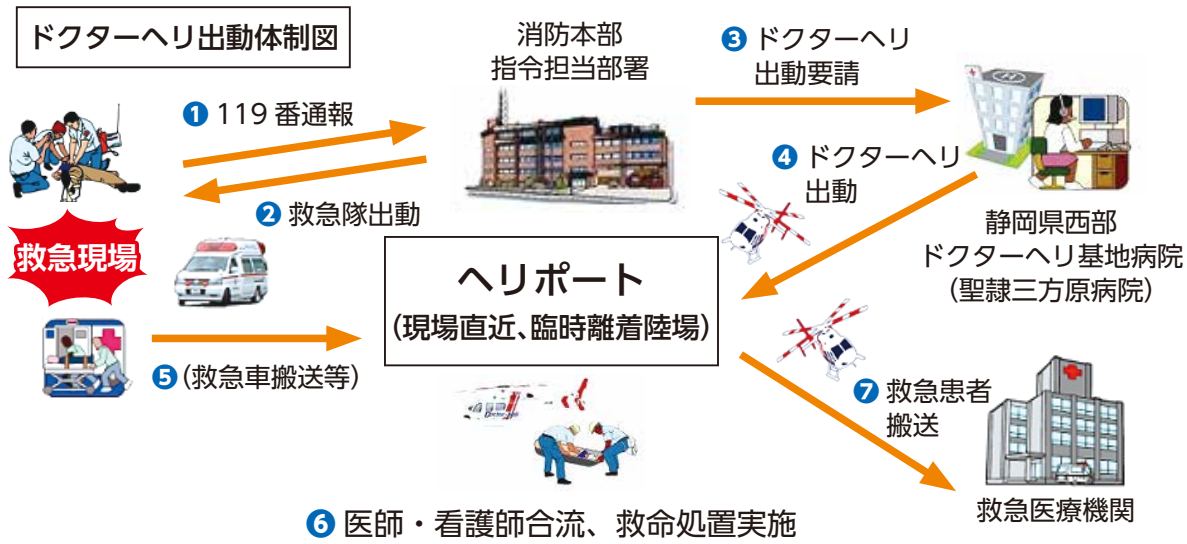
県の経済全般を担当する委員会です。
- 商業の発展
- コロナ関連（応援金等）の迅速な審議
- 自動車の電動化への対応
- 新しいビジネスにチャレンジしやすい環境づくり
- 農地や森林の保全、水産資源の確保など

積極的に取り組んでいきたいと思います。

報告Ⅱ　湖西市関連の取り組み

1 ドクターヘリ格納庫

3 年前に議会で取り上げ、県に設置を要請してきた聖隷三方原病院ドクターヘリ格納庫が完成しました。これまでは台風等の悪天候時は、わざわざ愛知県営名古屋空港などにヘリを運び避難させてきました。このため、悪天候が解消し出動要請があっても、ヘリを名古屋等から病院に戻した後の出動のため時間がかかってしまっていました。格納庫設置によりこれらの課題が解消し、迅速な出動が可能になりました。これにより湖西市民への救急対応力が格段に向上します。



2 高師山地区津波避難タワー

新居町高師山地区に津波避難タワーが完成しました。これにより市内の津波避難施設空白区域が解消されました。タワーの高さは地上 9.2 メートル（海抜 10.9 メートル）です。南海トラフ大地震で想定する約 5.6 メートルの津波に対処可能な高さを確保しています。146 人を収容可能です。

県の補助事業を使った施設であるということだけでなく、元西浜名自治会長の松島仙治さんをはじめとする地元の方々と一緒に、土地探しから関わらせていただいたのでとても感慨深いものがあります。緊急輸送路の確保他、施設の建設以外の津波地震対策も引き続き取り組んでまいります。

3 新所原駅周辺活性化

新所原駅周辺の賑わいづくり、駅前空き店舗対策・創業を支援、外国人との交流促進を目的として、新所原自治会、湖西市商工会、湖西国際交流協会、私が代表をつとめる NPO 法人はまなこサイクルの 4 者が連携して、新所原駅北口にて露店イベント『新所原グルメスタンド』を令和 3 年 11 月毎週金曜日（4 回）17 時～ 21 時に実施しました。

多くの方々よりご意見とご協力をいただき、イベント継続実施を目指します。

4 大倉戸茶屋松線

都市計画道路大倉戸茶屋松線は、国道 1 号浜名バイパス　大倉戸インターチェンジから北上して、東海道新幹線と交差し、国道 301 号に至る、浜名湖西岸地域の南北軸を形成する重要な路線です。また、造成工事が進む新たな工業団地（新居町内山地区）のアクセス道路として期待されています。

全長 5.2㎞のうち、2㎞区間（湖西市中心部）整備完了。残り 3.2㎞区間のうち、2.6㎞区間は現在整備継続中です。

1.6㎞区間（浜名バイパスから工業団地）湖西市

1.0㎞区間（上記北側）浜名湖西岸土地区画整理組合が、それぞれ整備を進めています。

現在未着手の 0.6㎞区間は、0.35㎞区間（整備中の北側）は、県が街路事業により整備する方針とし、事業化に向けて調整を進めております。

また、0.25㎞（新幹線跨線橋を含む）は、現在実施中の土地区画整理事業により整備することとし、事業の着手に向けて、国との協議を鋭意に進めているところであります。県は、引き続き湖西市等と連携し、浜名湖西岸地域の産業や都市活動を支える本路線の着実な整備を進めていきます。

5 浜名港を賑わいづくりに活用へ

県では、浜松市や湖西市、浜名湖周辺にある企業等と連携し、例年 7 月に浜名港をメイン会場として開催している「浜名湖ミナトリング」の事務局として、広域的な「賑わいづくり」に取り組んできました。今後は旧西部保健所浜名分庁舎と、隣にある旧静岡県浜松土木事務所新居支所を含めた浜名港周辺を民間の力をお借りして魅力的な場所にしていきたいと考えています。港をただの荷上げ場でなく、にぎわいづくりの場所として利用する事例が他県でも増えてきていますので、是非市民の皆様のご意見をお聞かせください。

6 西部保健所移転

障がい者の方や飲食店の手続きなどを行っている静岡県西部健康福祉センター（西部保健所）浜名分庁舎は、令和 3 年 10 月 4 日に移転しました。

湖西市健康福祉センター（おぼと）1 階（南入口をご利用ください。）

電話　053-401-0155　（FAX）053-401-0160

7 オリンピック・パラリンピックのレガシーづくり

静岡県でオリンピック・パラリンピック自転車競技が開催され、このレガシー（遺産）をどのように残すかが課題です。地元浜名湖においては着実にサイクリストの数が増え、官民連携の取り組みの効果が出てきていると実感していますが、現時点では日帰りのお客様が多いことが課題です。そこで課題解決のため、浜松浜名湖ツーリズムビューローや県ではガストロノミーツーリズム（食文化を体験する旅）の取り組みを進めていきます。例えば、「浜名湖にはこんなに美味しいものがあるので、泊まって帰ってください！」と日帰りのお客様に情報提供することです。そして、サイクリングと湖西連峰登山を組み合わせて PR するなど体験と体験を掛け合わせて情報提供することにも取りくんでいきます。

パラスポーツに関しては、パラリンピックを通して魅力を再確認しました。先日は静岡県パラスポーツ大会に出場し、車いすバスケとシッティングバレーボールを楽しみました。スポーツを通して障害によって分け隔てられない社会を目指す取り組みをすすめます。

報告Ⅲ　一　般　質　問

7 月 30 日、県議会本会議にて一般質問を行ないました。湖西市に関わる課題を主に取り上げていますので、是非ご覧ください。
※紙面の都合で抜粋して掲載しています。

レイクハマナ未来都市
❶ 環境重視型の工業エリアの形成について

田内質問

４期目の所信において、知事は「浜松市や湖西市などと連携し、次世代移動サービス（MaaS）などの新交通・移動システムの構築や環境重視型の工業エリアの形成など、自然と共生し、資源を循環させる域内循環型の地域づくりに取り組む」と述べた。製造業が盛んな静岡県にとって、県独自の環境重視型の工業エリアの形成は温暖化対策実行計画目標の達成に大きく寄与すると考える。そこで、県は環境重視型の工業エリアの形成をどのように進めていくのか、所見を伺う。

県答弁

レイクハマナ未来都市構想は、県西部地域におきまして、自然と共生し、資源を循環させる「広域循環共生圏」を形成しようとする取組。先端技術で資源循環を担う新たな静脈産業の立地の促進、また、県内企業が県工業技術研究所と開発した食品残さを新たなエネルギー源に転換するバイオマスプラントの実装化などを進めていく。また、中小企業の次世代自動車開発への支援や自動運転などの実証フィールドの形成など、官民を挙げて取り組む産業構造転換への道筋を示し、AI や IoT（Internet of Things）などの先端技術を活用した再生可能エネルギー導入の最適化など、環境重視型の工業エリア形成に向けた取組の方向性を示していく。

❷ 電力の再生可能エネルギー化について

田内質問

電力を多く消費する製造業に限らず、レイクハマナ未来都市構想を成功させるには、電力の再生可能エネルギー化が最重要の取組になると思われるので、県においては今後、景観に配慮した太陽光発電や小水力発電、バイオマス発電など発電性能の向上が見込まれる分野に注力すべきと考える。そこで、レイクハマナ未来都市構想において、電力の再生可能エネルギー化にどのように取り組もうとしているのか県の所見を伺う。

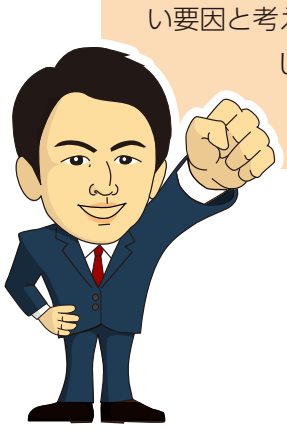
県答弁

レイクハマナ未来都市構想においては、小水力や各種バイオマス発電などについても、技術革新の動向などを見据えつつ、本年度改定する「ふじのくにエネルギー総合戦略」を所管する経済産業部などと連携しながら、幅広い産業分野への導入促進に向けた検討を進めていく。県としては、官民が連携して電力の再生可能エネルギー化に向けた具体的な取組の方向性を構想に盛り込んでいく。

骨髄ドナー登録者への支援について

田内質問

骨髄ドナー登録者の 20 代の割合が低い本県においては、若い方に、骨髄ドナー登録のことを知っていただき、より多くの方に登録いただく必要があると考えるが、どのように取り組むのか、県の所見を伺う。また、ドナーと勤務先に対する支援制度が十分に広がっていないことが、本県の登録者数が伸びない要因と考えられる。県としても支援制度をつくり、しっかりと市町とも調整をしていく必要があると考えるが、県の所見を伺う。



県答弁

若い世代のドナー登録の増加に向け、今年度からは県立大学の看護学生に、授業時間の中で骨髄移植やドナー登録について説明を行い、１人でも多くの方が登録してくださるよう呼び掛けたところであり、今後、他の県内大学に御協力いただき、更に取り組んでいく。また、骨髄提供時の支援制度につきましては、複数の県から、制度導入が骨髄ドナー登録者の増加に寄与したと伺っているが、登録だけでなく、骨髄提供の増にもつながる、より良い制度とするため、事業者の意見を伺いながら、市町とも連携して検討を進めていく。

報告Ⅲ　一般質問　前面の続き

浜名湖におけるアサリの資源回復について

田内質問

浜名湖のアサリの漁獲量は、平成 27 年の 3,437 トンから、平成 28 年以降２千トンを下回り、令和元年は 872 トン、令和２年は 707 トンと過去最低の水準に落ち込んでおり、大変厳しい状況にある。県においては、令和３年開始の新成長戦略研究で増減要因を更に特定するとともに、餌環境の良好な地点の探索や資源添加などによる資源造成に関する研究及び食害対策研究に取り組んでいる。そこで、研究をどのようにすすめ、それを具体的な資源回復にどのように結び付けていくのか、県の所見を伺う。

県答弁

県では、本年４月に専門的な知見や技術を持つ東北大学等と共同でプロジェクトチームを設置し、アサリ漁業の再生に向けた新成長戦略研究を開始したところ。アサリの卵や幼生は、産卵場所から浮遊状態で、潮の流れに乗って湖の中を移動・拡散した後、湖の底に定着し、貝として成長していく。近年の不漁の原因の一つは、湖内の潮の流れの変化や餌プランクトンの減少等に伴い、成育に適した場所に定着する卵や幼生の量が減少したこと、あるいは、成育適地そのものが減少したことであると考えられる。このため、本研究では、成育適地における卵や幼生の定着量の増加に向け、産卵が行なわれる場所と時期の双方の最適化に取り組む。具体的には、まず、浜名湖内の潮の流れの実態調査に基づき、卵や幼生の発生、移動・拡散の状況を検証し、最適な産卵場所や時期を特定する。あわせて、適切な時期に親貝が産卵できるように、成熟を制御する技術の開発も進め、アサリの生態に合わせた総合的な増殖技術を確立し、現場への実装に取り組む。

浜名港について

田内質問

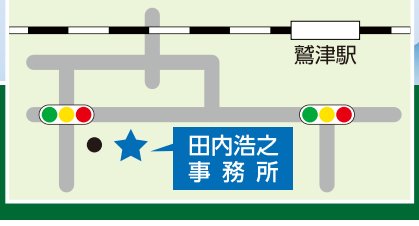
現在浜名港周辺は、７月 10 日に海湖館等が国のみなとオアシスとして登録され、新居弁天地区においては観光地域の活性化に向け、湖西市による再整備が検討されており、民間活力を求めてサウンディング型市場調査が行われるなど、地域の活性化に向けて様々な動きが出てきている。浜名港の物揚場周辺においても、地域の皆様や県市で取り組んでいるイベント「浜名湖ミナトリング」が、今年で５年目を迎えた。また、現在、浜名港に隣接する浜松土木事務所旧新居分庁舎は、水防や道路・港湾の維持管理に活用しているものの無人の事務所になっており西部健康福祉センター浜名分庁舎も湖西市役所内に移転が決まっているので、今後、この両施設と港が一体的に活用されることが期待される。そのほか、新居の関所付近を発着とした水路巡りの企画も着実に実現に向かって動いており、浜名港は先々、陸と海の中継地点としての利用が見込まれるところである。私の地元でもある浜名港の活性化は、地域にとっても重要なことと考えており、このような地域の盛り上がりを更に進めていくためには、県をはじめ、市や関係者の方々が連携して、賑わいづくりに取り組んでいく必要があると考えるが、県の所見を伺う。

県答弁

浜名港は、浜名湖南部と遠州灘に通じる今切口周辺の海域を港湾区域とする、県西部唯一の港湾で、静穏な水面を有していることから、年間を通じ、多くの方々が、釣りやプレジャーボートなど多様な海洋レクリエーションを楽しんでいる。県では、浜松市や湖西市、浜名湖周辺にある企業等と連携し、例年７月に浜名港をメイン会場として開催している「浜名湖ミナトリング」の事務局として、広域的な「賑わいづくり」に取り組んでいる。また、浜名港については今切口西側における津波対策施設の整備や港湾施設の適正な維持管理を行い、来訪者の安全確保に努めている。

一方、湖西市では、「みなとオアシス」の登録を踏まえ、新居弁天地区において、民間活力を導入した再整備の検討を始めるなど、地域活性化に向けて動き出している。こうした動きを継続的かつ効果的に進めていくためには、市が観光協会等、地域に精通した関係者とともに、取り組んでいくことが重要。県としては、浜名港を含めた地域の活性化が着実に進むよう、湖西市や地域の皆様の意見をしっかりと伺いながら、これまでのミナトリングの活動を通じて得た経験やノウハウを活かして、アドバイスを行うなど、積極的な支援に努めていく。

【ラジオ番組】『TSUNAGU みんなの政治』
FMHaro! 76.1
仲間の議員とラジオでお届け！県政情報
土曜日（隔週）　午後５時より



バックナンバー　ご希望の方へ
今回『田内浩之たより』30 号です。１～29 号はホームページでご覧いただけます。
送付をご希望の場合は、田内浩之事務所へ電話、FAX、又はメールにてご連絡ください。
お手数ですがよろしくお願いいたします。

■TEL. 053-575-3105　■FAX. 053-575-3107　■携帯 080-1553-9629　■ info@tanai.jp
ご意見お問合わせ
静岡県議会議員
田内浩之事務所
田内浩之　検索
■http://www.tanai.jp/
■発行元 ㈱朝倉印刷